

<発言者>

<項目・内容>

委員長

1 公安委員長挨拶

『世の中から見ると警察の印象』と題し、新聞記事から2つ紹介する。

1つは4月18日の記事から。ランドセルの製造会社(株)クラレは、全国の新小学1年生4千人を対象に『将来なりたい職業』のアンケートを1999年から毎年実施している。1位はずっとスポーツ選手で、2位の警察官が肉薄する状況が続いていたが、ついに今年、警察官が1位となったということである。記事の分析では、順位変動の理由としてコロナの影響でスポーツ観戦ができなくなったことを挙げていたが、私の心に残ったのは、6～7歳の低学年の子が警察官にとっても強い印象と良いイメージを持っているという点である。こういう記事を見つけると嬉しく思う。一方で、中学校、高校と進むにつれ、警察官という職業へのイメージは失われていくようだ。社会の中での警察官の仕事の大変さを知ってしまうからなのだろうか。

2つは本日の記事、80歳代の県民からの『日本一安全な島根県を実証』という投稿である。

島根県内の新型コロナウイルス感染者数は最少、総選挙の投票率はかつて全国1位、交通事故や犯罪発生件数の少なさは全国に誇れる、この3つを柱に、島根県は日本一安全であるということ強調しておられた。これらは勤勉な県民性がもたらすものであるとする一方、これをもっと誇れるようにするためには県民を挙げて一層努力していかなくてはならないとも訴えておられた。

私は公安委員として警察を第三者的立場で管理する一方で、同時に警察を応援する一人の県民でもある。この投稿者のように県警の取組を見ている方がいらっしゃることに、非常に勇気付けられた。

県内でも新型コロナウイルスの感染者が増えてきた。投稿者は、誹謗中傷せず、狭量でなく思いやりの心を持って協力していける県民でありたい、と締めくくっておられた。

このように県民の応援をいただきながら警察活動ができていることに喜びと誇りを持ち、今後も頑張ってもらいたい。」旨の発言があった。

2 議題

(1) 島根県公安委員会の委員のサービスの宣誓に関する条例の一部改正

警察本部 「改正の趣旨は、行政手続における押印等の見直しに伴い、所要の改正を行うものである。改正の要点は、宣誓の実施方法の変更として、『知事の面前において、宣誓書に署名する。』を『宣誓書を知事に提出する。』に変更し、宣誓書の様式の整備として、署名の欄に並ぶ『㊦』の表示を削るものである。条例の県議会上程は、令和3年6月定例会の予定であり、施行期日は公布の日である。」旨の説明があり、原案のとおり決定した。

委員 [意見]「押印の省略は世の中の流れであり、案のとおり進めてもらいたい。」

委員 [意見]「時代の流れだと思う。このまま進めてもらいたい。」

(2) 警察署協議会委員の委嘱

「今年は警察署協議会委員の改選の年であり、91人を警察署協議会委員として委嘱する。内訳は新規36人、再任41人、再々任14人である。任期は令和3年6月1日から令和5年5月31日までの2年間である。職業別では管内事業者が最も多い。県立大学浜田キャンパスから学生の推薦をいただいております。本人も強い関心を持っていることから学生にも委嘱する予定である。また、国際交流員等の外国国籍の方にも委嘱を行う予定である。男女構成比は男性49%、女性51%である。年代別では60代が最も多いが平均年齢は前回よりも2歳近く若くなっている。」旨の説明があり、原案のとおり決定した。

委員 [意見]「これまで警察署協議会にも参加しているが、第三者の客観的視点で積極的に意見を言われる方が多い。案では男女が約半数であり年齢層も幅広いので良いと思う。」

委員 [意見]「性別が半々で、年齢層も幅広いのでいろいろな意見が聴けると思う。この通り進めてもらいたい。」

(3) 行政不服審査法に基づく審査請求に対する裁決書(案)

警察本部 行政不服審査法に基づく審査請求に対する裁決書(案)について説明があり、原案のとおり決定した。

3 報告

(1) 苦情の取扱状況(3月)

警察本部 苦情の取扱状況(3月)について報告があった。

(2) 子供・女性・高齢者の安全対策の推進状況

警察本部 「配偶者からの暴力(DV)・ストーカー・虐待事案の認知状況、行為者の検挙状況・警告等の状況について、令和2年中の特徴として、DV事案は減少し、ストーカー・虐待事案は増加している。また、虐待事案のうち、児童虐待は減少、高齢者・障がい者虐待は増加している。声かけ・つきまとい事案の認知状況、行

為者への警告・検挙等の状況について、令和2年の特徴として声かけ・つきまとい事案とも増加している。声かけは前年比24.5%増、つきまといは前年比76.6%増である。松江市、出雲市の発生が約65%、被害者は学生が約72%、うち小学生が33.2%、発生の時間帯は16時台、17時台が多い。今後、自動車警ら隊の現場対処体制を強化、各警察署への指導教養の実施、情報分析による警戒とみこぴーメールによる情報発信、他機関・防犯ボランティアとの連携強化を推進する。」旨の報告があった。

委員 [意見]「親のDVと子の虐待は関連性が高いと思う。高くアンテナを張り、敏感な気付きが必要だ。自動車警ら隊が機能して成果を上げることも期待している。」

委員 [意見]「コロナ禍で外出がしにくい状況の中、虐待事案に気付きにくいということもあるのではないか。みこぴーメールで声かけ・つきまとい事案が多く配信されてくる。ボランティアの頑張りにも期待している。」

(3) 春の全国交通安全運動の実施結果

警察本部

「期間中の交通事故発生状況は、事故件数23件で前年と同数、交通事故死者数は4月7日に松江市乃白町地内の県道で発生した1件1人、負傷者は22人で前年よりもマイナス9人であった。運動重点関連事故の発生状況は、高齢者関与が7件で昨年よりもマイナス3件、子供関与が1件で昨年よりもプラス1件、自転車関与が3件で昨年よりもマイナス1件、人対車両が4件で昨年よりもプラス2件であった。なお、4月8日は全国で交通事故死者数がゼロであったが、1日の交通事故死者数ゼロは昭和43年に統計を開始して以来初のことであった。期間中の交通指導取締りの状況は、交通切符と反則切符による検挙告知3,260件、点数切符による点数告知が239件の合計3,499件であった。期間中の各警察署の主な取組は、松江警察署では自転車ヘルメット着用推進モニターとして松江北高校、松江商業高校、松江市役所等の方をモニターに委嘱した。雲南警察署ではシートベルト、チャイルドシート着用啓発として三刀屋保育所の園児及び保護者にタックルバンドやチラシを折り込んで配布した。出雲警察署では国道9号において、あすなろ保育園の園児が一日おまわりさんとなり街頭啓発活動を行った。大田警察署では反射材を効果的に活用し、のぼり旗やハンドプレートにも反射材を取り付けたり、里見棋士の座右の銘が反射するマスクも活用した、輝け！反射材プラスワン作戦を行った。益田警察署では31事業所から飲酒運転根絶署名簿の提出をいただいた。その他の警察署でも様々な取組を行った。今後も

委員 各種取組を推進し事故防止に努める。」旨の報告があった。
[意見]「各署がいろいろな工夫をされていて、多くの人に響いている。のぼり旗を持って立っておられるのを見ると、内発的動機に係る取組だと感じる。一年間を通して実施され、全体に浸透する。」

委員 [意見]「子供は交通安全教室によって指導を受けて交通ルールを守るが、高齢者は横断歩道を横断しないことがある。高齢者の交通安全指導を徹底してほしい。」

4 話題

初任科生の入校式及び諸行事

警察本部 「初任科生の入校式及び諸行事を通じて、初任科生が守られる者から守る者へ少しずつ変化している様子について報告する。4月7日に警察学校において入校式を開催した。新型コロナウイルス感染症に配慮して規模・時間を短縮して行った。保護者の方には記念写真を送付した。初任科生からは辞令書を手にして決意を新たにした等の感想があった。入校初日の4月1日に制服等を貸与した。4月8日に非常招集訓練を実施した。常在戦場の意識付けが目的で、災害発生を想定して実施した。平均タイムは17分25秒で平年並みであった。4月13日に球技大会を実施した。期を超えた連携の学び、初任科生と教職員の融和を目的として実施した。4月16日に音楽隊による歓迎コンサートを実施した。元気をもらった、涙がでそうになった等の感想があった。新型コロナウイルスの飛沫感染防止等に配慮して行った。引き続き学校教養の目的が達成できるように努める。」旨の報告があった。

委員 [意見]「子供たちの憧れを裏切ることのない警察官に育ってほしい。」

委員 [意見]「皆さんには希望の光に向かって頑張してほしい。」

5 総括

本部長 「昨年1年間、各部門では非常に良い成果を上げてもらったが、この度、警備部において警備情報活動と災害対策の取組に関し、それぞれ警察庁長官賞をいただくこととなったので紹介したい。

警備情報活動は、各警察署等によって様々な情報収集がなされていたという点が評価され、今回で4年連続の受賞となる。受賞自体が難しいが、4年連続というのは警察署を始めとする関係各位の成果であると思う。

災害対策は、昨年7月の熊本県の特別養護老人ホームにおける被害を受け、当県で同様に被害を発生させないようにという着眼から

行われた取組である。具体的には、島根県内の浸水が予想される高齢者施設を対象に警察本部や各警察署が県や市町村の災害担当者と協議をし、該当地区にある老人ホームを直接訪ね、避難計画の策定や訓練を実施したことが評価されたものである。

また、コロナ禍の中で密を避ける警備本部の分散運用を行った。一つの部屋に集まらずして必要な情報を共有するものである。その際、PCによって同時多数で情報をシェアする機能をうまく活用するという取組も併せて評価されたと聞いている。」旨の発言があった。